

「ネオアルサミノール」濃厚液血管外注射ニ就テ

大阪ニテ

岡山醫學士 井田政次郎

序 言

吾人ガ「アルサミノール」類ヲ注射スルニ當リ最モ簡單ニシテ尙ホ患者ニ些ノ苦痛ヲモ與ヘザラシメナバ如何ニ黴毒患者ハ幸福ナルカ即チ無痛ニシテ且低廉ナル報酬トヲ以テ吾人ハ能ク患者ヲシテ文明ノ恩惠ニ浴セシムルナラシ、現今ニ於テハ濃厚液注入法普ネク採用セラレソノ效果ハ別問題トシテ以前ノ如ク稀薄液注入法ノ如キ繁雜ナル手數ト注射後ノ發熱及ビ其他ノ副作用トハ殆ド一掃セラレタルハ吾人ノ深ク喜ブ所ナリ、然レドモ濃厚液注射ニ當リ完全ニ靜脈内ニ注入セラレザルトキニハ稀薄液注射ヨリモヨリ多クノ注射部ニ激烈ナル疼痛ヲ與ヘシノミナラズ後日ニ至リ硬結ヲ殘シ甚ダシキニ至リテハ附近ノ炎症ヲ起シ或ハ關節運動障害ヲ起スガ如キコトアリテ醫師ハ怨惡ノ的トナリ再ビ該醫師ヲ訪問セザルノミナラズ醫師ノ說諭如何ニ依リテハ再ビ注射ヲ顧ミズコノ文明ノ良藥ヲ惡評スルニ至ルベシ、コノ故ニ吾人ハ「ネオアルサミノール」濃厚液注射ニ當リテハ稀薄液ヨリモ特ニ技術ヲ要シ深キ注意ノ許ニ精確ニ行ハザルベカラズ殊ニ脂肪過多ノ婦人ニ於テハ特ニ然リ。

然ルニ余ハ開業以來僅カ四例誤ツテ血管外ニ「ネオアルサミノール」濃厚液ヲ注射シ内一名ハ四十歳ノ男子ニシテ不幸ニモ血管外ニ注入セラレ即チ組織内ニ漏レ該藥説明書ノ如ク強キ疼痛及ビ滲潤ヲ來タシ硬結ヲ起シ後ニ炎症ヲ發シタルヲ以テ炎症部皮膚ノ切開ヲ行ヒ二%硼酸濕布縮帶ヲ施シ約十日程ニシテ炎症硬結ハ共ニ去リ完全ニ治癒セリ、他ノ三例ハ前記ト稍々異リタル經過ヲトリタルヲ以テ茲ニ諸子ニ報告シ併セテ今後諸子ニ於テモ誤ツテ血管外ニ注射セラレタル經過ヲ多數集輯報告セラレタキモノナリ。

井田「ネオアルサミノール」濃厚液血管外注射ニ就テ

三五四

第一例 清〇マ〇子

既往症 患者ハ三十二歳ノ婦人ニシテ生來健康ナルモ數年前夫ヨリ黴毒感染シ硬性下疳横痃ヲ發シ横痃ハ切開ニヨリ治癒ス未ダ妊娠シタルコトナシ。

現症 體格營養中等度皮下脂肪組織稍々良ニシテ目下甚ダシキ頭痛眩暈アリ、諸淋巴腺ノ腫脹硬結ヲ觸レ某病院ニ於テ「ワツセルマン」反應強陽性ナリトノ診斷ヲ受ク。

診斷 第三期黴毒。

注射 大正六年十月二日「ネオアルサミノール」〇・三ヲ新鮮ナル滅菌水道水一〇糎ニ溶解シ初メ右肘關節部靜脈ニ約三柳注入セシモ血管外ニ入りシテ以テ患者ハ疼痛ヲ訴ヘシタメ中止シ次ニ左肘關節部靜脈ニ注入セムトテ穿刺セシニ之モ亦血管外ニ入りシカド餘リ疼痛ヲ訴ヘザルタメ殘渣ヲ全部注入シ後注射部ヲ十數分間按摩シ冷濕布ヲ貼用セリ。

注射ノ結果 全ク無熱ニシテ何等副作用ナク注射後二三時間ニシテ烈シキ疼痛起リタルヲ以テ冰冷菴濕布ヲ施シ可及的其吸收ヲ促進セリ數日間ハ自發痛壓痛共ニ可ナリアリシモ其後ハ自發痛ナク單ニ壓痛アルノミ硬結ハ左右共ニ二三日目ヨリ觸知セラレソノ部ノ皮膚ハ「チアノーゼ」ヲ呈セリ然ルニ約二週間ニシテ壓痛硬結ハ去リ局處ニ貯溜シタル藥品ハ別ニ有毒ナル分解産物ニモ變ゼズ炎症等モ起サズ無事ニ吸收セラレタリ。

第二例 芳〇シ〇子

既往症 患者ハ十九歳ノ女子ニシテ生來健康ナルモ十七歳ノ十二月痔瘻ヲ病ミ直チニ手術シ約一箇月半ニシテ治癒シ其後ハ痔疾患全ク無シ十八歳

ニシテ結婚シ夫ヨリ花柳病ノ傳染ヲ受ケ放尿時疼痛及ビ白帶下アリシモ現今ハ全ク無シト云フ而シテ患者ハ痔瘻手術後兎角健康思ハシカラズ日夜不快ニ起居セリ本年二月頃ヨリ夜間發熱食慾減少頭重胸痛ノ感アリ依ツテ某病院ニテ診チ乞ヒシニ濕性肋膜炎ナリト云フ且患者ハ黴毒傳染ノ有無ヲ確カムルタメ血液検査ヲ受ケシニ陰性ナリト云フ越エテ三月十一日余ガ許ニ來タル。

現症 患者ハ言語動作快活ニシテ一見重症ノ疾病ヲ有セザルモノ、如シ體格營養共ニ良ニシテ皮膚ハ稍々蒼白色ナルモ光澤アリ稍々脂肪過多ナリ觸診上肘腺鼠蹊腺ハ稍々腫脹シ脉搏心臟共ニ異常ナケレドモ兩肺尖部ハ呼吸延長セリ左前胸及ビ後胸下部ハ呼吸音全ク聽取セラレズソノ部ハ濁音ヲ呈ス依ツテ試驗的穿刺ヲ行ヒ穿刺液ヲ檢スルニ漿液性ニシテ稍々混濁ス、「ルエチン」検査ヲ行ヒシニ陽性膿疱型ノ反應ヲ呈セリ依ツテ「ネオアルサミノール」注射ヲ勸告ス。

診斷 濕性肋膜炎兼潜伏性黴毒。

注射 大正八年三月十四日午後二時「ネオアルサミノール」〇・一五ヲ第一例ノ如ク溶解シ右肘關節部靜脈ニ注射セムトテ穿刺セシニ誤ツテ血管外ニ穿刺セラレシコトヲ明ラカニ余ハ知レドモ患者ハ殆ド自覺痛モ無ク且壓痛モ亦訴ヘザルタメ一〇・〇糎全部ソノ部ニ注入シ暫時按摩ヲ施シタリ。

注射ノ結果 注射後三四時間ヲ經テ稍々自覺痛アリ其後五六時間ハ燒クガ如キ激痛ヲ感シ當夜ハ安眠出來ズ依ツテ冷濕布ヲ行ヒタルニ翌朝夜明頃ヨリ疼痛漸次緩解セリ注射ノ翌日ハ肘關節運動時ノミ僅ニ自發痛アリ滲潤部ニハ壓痛甚ダシクソノ部ノ皮膚ハ「チアノーゼ」ヲ呈ス硬結ハ未ダ少シモ

觸レズ時々冷濕布ヲ行フ第三日ニハ自發痛殆ド無ク稍々壓痛アリ滲潤部ハ少シ硬キ感アリ濕布ヲ貼用セズ其後二三日間ハ自發痛壓痛ナクタマハ手拳大位ノ廣サニ於テ中等度ノ硬結ヲ觸ル、ノミ注射後一週間目ニハ硬結貳錢銅貨大位ノ廣サトナリ二週間目ニハ硬結殆ド觸レズ試ミニ上膊ニ於テ手拭ヲ以テ強ク壓迫セバ滲潤セシ部分ハ「チアノーゼ」ヲ呈スルコト特ニ著シキノミニシテ其他爾餘ノ部分ト何等異リタルコトナシ。

第三例 芳〇シ〇子

第二例患者ト同シ患者ニシテ、前回注射後約二週間目ニ於テ行ヒタナルリ。

注射 大正八年三月二十八日午後九時ニ「ネオアルサミノール」〇・三チ前回ト同シク新鮮ナル滅菌水道水一〇・〇〇〇糎ニ溶解シ肘部ノ靜脈ハ不明ナルヲ以テ稍々明ラカナル右膝關節部ノ内上方ニ於テ注射ス、サレド不幸ニ

以上ノ三例ハ共ニ血管外即チ皮下注射ニシテ第一例ハ注射時ニハ僅カ疼痛アリ又注射後二三日間激痛アリシモ十餘日ニシテ完全ニ吸收セラレ第二例第三例ハ注射時ニハ殆ド疼痛ナク注射後モ僅カ數時間激痛アリシノミニシテ翌日ヨリハ殆ド疼痛無シ、而モ後日ニ至ルモ完全ニ吸收セラレ硬結、運動障害、有毒ナル分解產物炎症等ヲ起サズ經過セリ。

結 論

(一) 前例ハ共ニ脂肪過多ナル婦人ニシテ脂肪少ナキ婦人及ビ男子ニハ斯カル好成绩ヲ修メタルコト未ダコレ無キヲ以テ精確ナル判定ハ爲スヲ得ザルモ、余ノ推察スル所ニ依レバ僅カ一〇糎位ノ注入ニ於テモ前三例ハ既ニ皮膚ハ膨隆シソノ部ヲ觸レバ冷寒ヲ覺ユルヲ以テ注入セラレシ液ハ甚ダ上層ニアリ即チ皮下ニアリテ皮膚ト脂肪組織トノ

シテ今回モ亦靜脈内ニ注入セラレズ、然ルニ注射筒ヲ進メ液ヲ注入スルモ、疼痛ヲ殆ド訴ヘズ又注射部附近ヲ壓スルモ壓痛ヲ殆ド感ゼズ依ツテ完全ニ一〇糎皮下ニ注入セラレタリ故ニ吸收ヲ促進スルタメ暫時按摩ス。

注射ノ結果 注射後一二時間ニシテ微痛ヲ覺エ其後益々疼痛増加シ冷濕布ヲ行フモ燒クガ如キ疼痛ヲ發シ其夜ハ一寸モ睡眠出來ズ翌朝ニ至リ疼痛甚ダ輕クナリ冷濕布モ去リ僅ニ壓痛ヲ訴フルノミ而シテ步行スルモ端坐スルモ故障ナク自發痛モ亦無シ、シカモ今回ハ「ネオアルサミノール」ノ分量倍加セルニモ拘ラズ前回ヨリモ注射時並ニ注射後ノ疼痛ハ甚ダ少ナシト云ヘリ注射後數日間ハ僅ニ壓痛硬結アリシモ約十日程ニシテ硬結ハ去リタマハ大腿部ヲ手拭ニテ強ク壓迫セバ以前硬結ノ有リシ所ニハ皮膚ニ「チアノーゼ」ヲ呈スル外何等他ニ認ムベキ症狀無シ。

間或ハ脂肪組織中ニ注入セラレ筋膜筋肉ノ如キ深部組織ニ直接ニ一時ニ注射液ガ接觸セラレズ而シテ注射液ガ徐々ニ脂肪組織ヲ通過シ深部組織中ニ漏出セラル、カ、或ハ大部分皮下及ビ脂肪組織中ニ貯溜セラル、ニ依ルモノナラシ。

(二) 「ネオアルサミノール」ハ皮膚内面及ビ脂肪組織ニ對シテハ深部組織即チ筋膜筋肉ニ對スルヨリモ疼痛感覺感受性少ナキモノ、如シ。

(三) 前三例ハ共ニ皮下或ハ脂肪組織中ニ注射液ガ貯溜シ居ルヲ以テ注射液ガ深部組織即チ筋膜筋膜下筋肉中ニ在ルヨリモ廣大ニ分布セラレ廣大ナル組織面ト接觸セラル、ヲ以テ疼痛ヲ感ズルコト少ナシ、夫レ故注射液ハ有毒ナル分解産物ヲ生ゼズシテ徐々ニ完全ニ吸收セラル、ニ依ルナラン、コノ故ニ硬結ヲ殘サバルナリ、コノ理ヲ以テセバ「ネオアルサミノール」ノ筋肉内注射ノ如キ局處ニ多量ノ注射液ヲ貯溜セシムルガ如キハ甚ダ危険ナリ。

(四) 以上ハ脂肪過多ノ婦人ニ行ヒタル例ナルヲ以テモシ脂肪少ナキ婦人又ハ男子ニ皮下注射ヲ行ヒタルナレバ深部組織ニ注入セラレザルモ深部組織面ト注射液トガ一時ニ多量接觸スルタメ疼痛ハ可成激烈ナルモ注射後按摩其他冷濕布ニヨリ一二週間ニシテ或ハ完全ニ吸入セラレ硬結其他ノ不快症狀ヲ殘サズシテ治癒スルモノナラン、前記男子ニ行ヒタル例ハ深部組織中ニ注射液ガ入りシタメ筋炎靜脈炎ヲ起シタルモノナラン。

後 序

「ネオアルサミノール」ノ濃厚液皮下注射ハ屢々患者ニ強烈ナル疼痛ト後日ニ至リ硬結、關節運動障害其他有毒ナル分解産物等ヲ生ズルニヨリ吾人ハ故意ニ皮下注射ヲ行フ事能ハザルヲ以テソノ實驗成績ヲ多數集ムルヲ得ザルハ遺憾ナリサレバ諸賢ニ於テ血管外注射ニ遭遇セラレシ時ニハソノ成績多數御報告ニ接シ度ク斯クノ如クシテ注射液ガ深部組織中ニ入ラズ且又深部組織ニ注射液ガ一時ニ多量接觸セザル限り硬結及ビ疼痛ハ皆無或ハ極ク微弱ナレバ脂肪過多ニシテ刀ヲ嫌フ婦人患者等ニハ何ソ強ヒテ皮膚切開ヲナシテ靜脈ヲ露出セシムルガ如キ繁雜ニシテ且危

險多キ事ヲナスノ要アラシクノ如ク簡單ニ「ネオアルサミノール」濃厚液ガ皮下ニ注入シ得ラル、ナレバ、ソノ藥物ノ效果ハ別問題トシ吾人臨牀醫家ハ時間ト勞力トハ消費セラル、事少ナキヲ以テ從ツテ醫家ニ對スル報酬モ亦輕減セラレ有毒患者ハ洽ネク屢々コノ文明ノ良藥ニ浴セシメ得ルナラム。